

## 梅干し作り体験

認定こども園文化幼児園

認定こども園文化幼児園(久保田美智子園長)は6月11日、年長組9人が園庭で梅干し作りを行いました。

5月中旬に梅のヘタをとる作業をし、この日は赤シンの葉を枝から摘み、赤シン漬けにする作業。

園児たちは、真剣な表情でシンの葉を摘んだ後、「おいしくなあれ」と呪文をかけながら、アク抜きした赤シンに梅酢を加えると、甘い香りからすっぱい香りに変化する様子を楽しんでいました。赤司蓮太郎くん(高久野)は「シンの葉はいいにおいがした。シンの葉をちぎる作業が楽しかった」と笑顔で感想を述べました。



色や香りが変わる様子に興味津々の園児



丁寧に苗を植える児童

## 立派に育つことを願って 一小的児童がサツマイモ苗植え

第一小学校(平山浩治校長)の児童は6月5日、同校の畑でサツマイモの苗を植えました。

この取り組みは年間を通じて農作物の収穫を行っており、その一環として苗植えを実施。苗は若手農業者グループ「がまだす隊」(菅原一真隊長)が毎年小学校などに寄付しています。この日は1・2年生が植えました。

2年生の川崎宥奈さん(関町)は「苗を植える方向に棒を差すところが楽しかった。大きく育つのが楽しみ」と語りました。



関係機関の代表者が協議

## 安全・安心な暮らしのために 町防災会議

町は6月7日、役場で防災会議を開催し、「令和元年度南関町地域防災計画」の一部修正や内容などについて協議を行いました。

この計画は、災害対策基本法の規定に基づき毎年作成されるもので、防災対策の現状把握と災害時の応急措置体制などが盛り込まれています。今回、避難勧告に関するガイドラインの改定に伴う警戒レベルの周知方法などを協議しました。

## 仕事と生活の充実に取り組む

佐藤町長が「よかボス」宣言

佐藤安彦町長は、町民の幸せな人生が実現するよう、自らの仕事と生活の充実に取り組むとともに、職員の仕事と生活の充実を応援しさらに町全体に広げることを目指し、「よかボス宣言」を行いました。『よかボス』とは、共に働く社員や職員、従業員の仕事と生活の充実を応援するボス(企業などの代表者)のことです。県民一人ひとりの「幸せな人生の実現」を目指し、熊本県全体で取り組んでいます。

佐藤町長は、「これをきっかけに、町内の企業や団体に広がるよう働きかけたい」と抱負を語りました。



認定証を受け取った佐藤町長▶



▲長距離走に挑む津留さん



▲混合リレー同着ゴール

## 町の代表選手が全力を尽くす

第74回玉名郡民体育祭(陸上競技)

5月12日、第74回玉名郡民体育祭(陸上競技)が長洲町総合スポーツセンターグラウンドで開催され、26人の町を代表する各年代の選手が奮闘しました。

南関町選手団の各種目の優勝者は次のとおりです。

【男子の部】

氏名	種目	記録
津留 健太郎(関東)	1500m 29歳以下	4分25秒7
鈴木 鑛満(小原)	2000m 70歳以上	9分36秒5
津留 健太郎(関東)	3000m 29歳以下	9分24秒7
原口 護(四ツ原)	砲丸投 60歳~69歳	7m37cm

【女子の部】

氏名	種目	記録
片山 浩子(関東)	100m 35歳~49歳	13秒7



▶美しいハーモニイを奏でる出演者

## 音楽のチカラを広めたい

ちっちゃなマルシェと音楽会

5月12日、「音楽ピクニックin宮尾」が石窯ピザカポック(宮尾)の敷地一帯で開かれました。

これは、同店主である勝田壽寛さんが主催となり、地元住民が出店するマルシェを展開。緑豊かな自然のなか、地元アマチュアアーティストによる屋外ライブも行われました。観客の皆さんは演奏される心地よい歌声や音色に耳を傾け、楽しい時間を過ごしていました。

勝田さんは、「音楽をきっかけに、もっと地域が活性化して、宮尾の魅力を知ってほしい」と語りました。

## 交通安全を呼び掛ける

春の全国交通安全運動

春の全国交通安全運動期間中の5月17日、町内を交通安全パレードし、上長田のふるさとセンター駐車場で交通安全キャンペーンを行いました。交通安全協会や交通安全母の会、少年補導員、地域交通安全活動推進委員、交通指導隊、玉名署員がドライバーに交通ルールを守るよう呼び掛け、啓発グッズを手渡しました。

春の全国交通安全運動は、子どもと高齢者の交通事故防止をはじめ、自転車の安全利用の推進、シートベルトとチャイルドシートの着用徹底、飲酒運転の根絶を重点に10日間展開されました。

玉名署によると、町内では4月末現在、9件の交通事故が発生し、負傷者は14人、死者は0人でした。



▶ドライバーに啓発グッズを手渡す参加者